

【事業の経緯】

別添資料1

河川-1 有喜川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
第1回審議 (H14)	事業採択後 10年経過	H5	H21	30.6	6.14	改修延長 L=1,700m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸整備、橋梁架替及び堰改築
第2回審議 (H19)	再評価後 5年経過	H5	H24	30.6	5.33	改修延長 L=1,750m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸整備、橋梁架替及び堰改築
第3回審議 (H24) (有喜川整備計画 検討委員会結果を 報告)	再評価後 5年経過	H5	H38	42.0	3.13	改修延長 L=1,750m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替及び堰改築
第4回審議 (H29:今回)	再評価後 5年経過	H5	H38	42.0	3.06	改修延長 L=1,750m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替及び堰改築

## チェックリストによる河川事業再評価項目

河川名	有喜川	事業名	総合流域防災	事業区間	河口～中通橋上流地点 改修延長L=1,750m
再評価の実施理由	事業再評価後5年経過（第4回再評価審議）				
未着工或いは事業が長期間要している理由	軟弱地盤対策及び用地取得等に時間を要しているため。				
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。			
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替及び堰改築			
	上位計画における位置づけ	・長崎県総合計画チャレンジ2020 9-(4)-5「地震、大雨、台風、高潮などの自然災害に備えた施設整備など防災対策の推進」に位置付けられている。 諫早市総合計画の中で、基本施策「いのちを守る防災対策」に有喜川河川整備事業の推進が挙げられている。			
目標流量	70m <sup>3</sup> /s	治水安全度	1 / 30		
事業の進捗状況	事業採択年	平成5年度	用地着手年	平成5年度	工事着工年 平成5年度
	全体事業費 (内用地費)	42.0億円 (16.9億円)	投資事業費 (内用地費)	29.0億円 11.2億円	(進捗率69.0%) (進捗率66.3%)
	事業進捗状況	河口から天神橋下流までの約600m間の河道改修は完了している。			
	一連の整備効果の発現状況	河口から天神橋下流までの約600m間は、目標の流下能力を確保。			
事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を図る。(平成38年度完成予定)			
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)				
	① 浸水戸数	: 112戸			
	② 農地浸水面積	: 15.3ha			
	③ 重要な公共施設等	: 有喜郵便局1、電話交換局(NTT)1、有喜駐在所1、有喜水源地1、公民館1			
	④ 災害弱者関連施設	: 有喜保育園			
	⑤ その他	: 国道251号			
	過去の災害実績				
	① 主な被災年	: 昭和56年6月			
	② 最大浸水戸数	: 103戸 昭和56年6月洪水			
③ 最大農地浸水面積	: 21.0ha				
④ 重要な公共施設等	: 郵便局1、電話交換局1、有喜駐在所1、有喜水源地1、公民館1				
⑤ 災害弱者関連施設	: 有喜保育園				
⑥ その他	: 国道251号				
災害発生の危険度					
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	: 約30%程度				
② 現況の治水安全度	: 1 / 2程度				
地域の状況	① 地域開発の状況	特に開発計画はなく、人口の変動は少ない。			
	② 地域の協力体制	諫早市が主体となった協力を得ている。			
	③ 関連事業との整合性の変化	特になし。			
	④ 地域の事業に対する社会的評価	洪水氾濫被害に対する安全確保のため、河川改修事業の早期完成が望まれている。			
	⑤ 事業の状況	工期延長の理由:			
費用対効果分析	「治水経済調査マニュアル(案):平成17年4月」に基づき分析				
	総便益(B)	: 22,174百万円			
	総費用(C)	: 7,255百万円			
	B/C=	3.06			
再評価による今後の対応方針	事業継続				

# 平成29年度 長崎県公共事業評価監視委員会

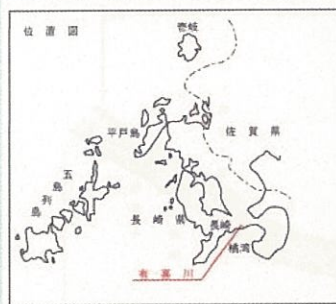
## 再評価対象事業

### 河川-1総合流域防災事業 有喜川

長崎県

1

## 位置図



流域面積 : 約5.7 km<sup>2</sup>  
幹川流路延長 : 約4.1 km



2

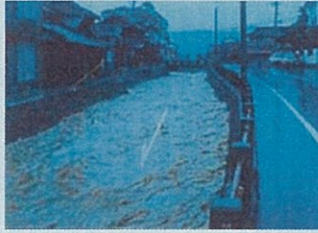


## 過去の被災写真

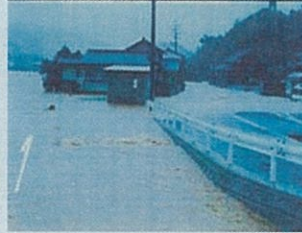
### 浸水状況 (平成2年7月洪水)



0k000 (川江橋左岸) 付近



0k200 (有喜橋) 付近



0k700 (国道251号:天神橋) 付近

### 浸水状況



生起年月日	大村観測所 (気)雨量		浸水 面積 (ha)	浸水 家屋数 (戸)	備考		
	24時間 (mm)	1時間 (mm)					
昭和56年6月30日	欠測		57	36.4	103	参考に近傍観測所の夫婦木観測所(国)で見ると、その24時間雨量は373mmである。	
昭和57年7月23日	欠測		85	26.9	38	開取調査より、最も被害が大きい洪水。参考に近傍観測所の夫婦木観測所(国)で見ると、その24時間雨量は472mmである。	
平成2年7月1日			161	26	26.8	30	
平成21年7月24日			149	28	—	1	山本橋付近で1m程度浸水(開取によるX)河川改修により浸水被害が軽減
平成27年8月12日			134	68	0.61	—	

## 過去の被災写真

### 浸水状況 (平成27年8月洪水)



0k560 (天神橋下流) 付近(改修済)



1k100 (山本橋下流) 付近



1k130 (山本橋右岸)



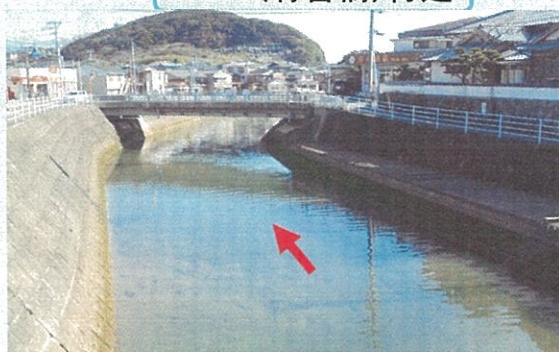
1k140 (山本橋右岸) 付近

## 現況写真

0k000(川江橋)付近



0k200(有喜橋)付近



0k550(開港橋上流)付近



0k600(鶴田橋上流)付近



7

## 現況写真

0k700(国道251号:天神橋)付近

現況川幅約5m 計画川幅約21m



1k100(山本橋)付近

現況川幅 約5m 計画川幅約17m



8

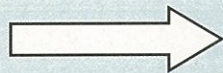
## 費用対効果分析

【B／C】 3.13（前回） → 3.06（現行）

〔マイナス要因〕

- ・ 想定氾濫区域事業所（従業員数）の減  
従業員数（125人→105人）

対応方針  
（原案）



事業継続

【事業の経緯】

別添資料1

河川-2 よし川都市基盤河川改修事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
第1回審議 (H19)	事業採択後 10年経過	H10	H35	38.1	3.39	L=1,895m 河道拡幅に伴う掘削、護岸、及び 橋梁の改築等
第2回審議 (H24)	再評価後 5年経過	H10	H35	38.1	3.05	L=1,895m 河道拡幅に伴う掘削、護岸、及び 橋梁の改築等
第3回審議 (H29:今回)	再評価後 5年経過	H10	H40	40.9	2.91	L=1,895m 河道拡幅に伴う掘削、護岸、及び 橋梁の改築等



## チェックリストによる河川事業再評価項目

河川名	よし川	事業名	都市基盤河川改修	事業区間	河口～市道中牟田草場線 改修延長L=1,895m
再評価の実施理由	再評価後5年経過（第3回再評価審議）				
未着工或いは事業が長期間要している理由	改修延長が長く改築の必要な橋梁・堰等の重要構造物が多い。また、地盤が悪く施工条件が厳しいため。				
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。			
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、護岸整備、堰改築、橋梁架替			
	上位計画における位置づけ	第5次大村市総合計画（災害に強いまちづくり）			
	目標流量	95 m <sup>3</sup> /s	治水安全度	1/50	
事業の進捗状況	事業採択年	平成10年	用地着手年	平成10年	工事着工年 平成14年
	全体事業費 （内用地費）	(+2.8億) 40.9億円 (4.1億円)	投資事業費 （内用地費）	20.3億円（進捗率 49.6%） 1.9億円（進捗率 46.3%）	
	事業進捗状況	河口から2号橋上流280m及び0/400～0/540（4号橋）まで完了 3号橋及び5号橋の架替を実施			
	一連の整備効果の発現状況	最下流改修済み区間は、計画高水流量100%の流下能力が確保されている。			
事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	下流からの整備を促進し、流下能力の向上を図る。（当初：H35→変更：H40年度完成予定）			
	災害発生時影響（想定氾濫区域内）				
	① 浸水戸数	：50戸			
	② 農地浸水面積	：47.1ha			
	③ 重要な公共施設等	：橋本公民館			
	④ 災害弱者関連施設	：松原小学校、松原幼稚園、松原保育園			
	⑤ その他	：国道34号、JR大村線、県道松原停車場線			
	過去の災害実績				
	① 主な被災年	：昭和57年、平成7年、平成9年			
	② 最大浸水戸数	：7戸（平成7年）			
③ 最大農地浸水面積	：18.3ha（平成7年）				
④ 重要な公共施設等	：なし				
⑤ 災害弱者関連施設	：なし				
⑥ その他	：				
災害発生の危険度					
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	：15%程度				
② 現況の治水安全度	：1/2程度				
地域の状況	① 地域開発の状況	：よし川沿川の未利用地は将来的に宅地開発が見込まれている。			
	② 地域の協力体制	：地元自治会が主体となり、沿川関係者の協力を得ている。			
	③ 関連事業との整合性の変化	：九州新幹線西九州ルート開業に伴う改修計画の変更。			
	④ 地域の事業に対する社会的評価	：洪水氾濫被害に対する安全確保のため、河川改修事業の早期完成が望まれている。			
	⑤ 事業の状況	：ボトルネックとなっている橋梁部の早期竣工を行い流下能力の向上に努める。 工期延長の理由：本体工事及び道路橋の事業費を一部精査した結果、残事業費が増加したため。			
費用対効果分析	「治水経済調査マニュアル（案）：平成17年4月」に基づき分析				
	総便益（B）	： 15,052 百万円			
	総費用（C）	： 5,165 百万円			
	B/C＝	2.91			
再評価による今後の対応方針	事業継続				

平成29年度  
長崎県公共事業評価監視委員会

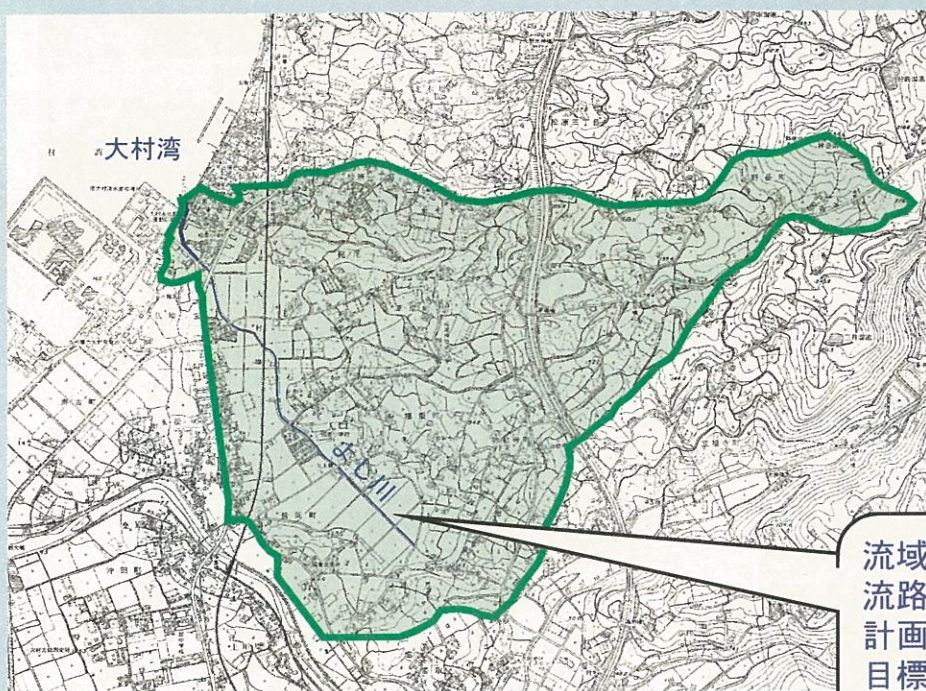
再評価対象事業

河川-2都市基盤河川改修事業  
よし川

大村市

1

位置図



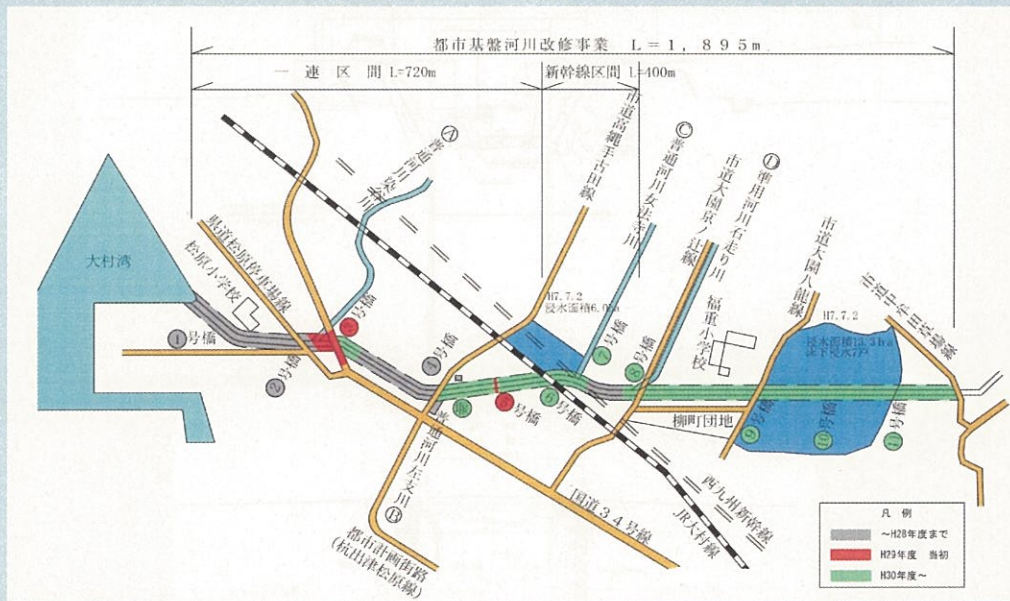
流域面積  $A=3.66 \text{ km}^2$   
流路延長  $L=1.9 \text{ km}$   
計画規模  $1/50$   
目標流量  $Q=95 \text{ m}^3/\text{s}$   
(河口地点)

2



## 再評価に至った理由（1）

【完了工期】H35(前回)→ H40(変更)



護岸および道路橋の事業費増、及び関係機関との協議調整に期間を要したため完了時期を延ばす。

## 再評価に至った理由（2）

【事業費増】38.1億円(前回)→ 40.9億円(変更)

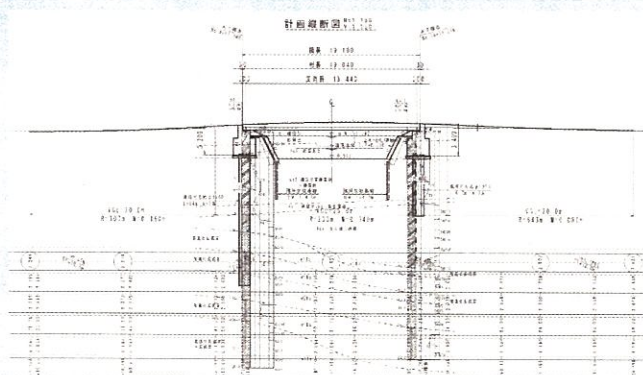
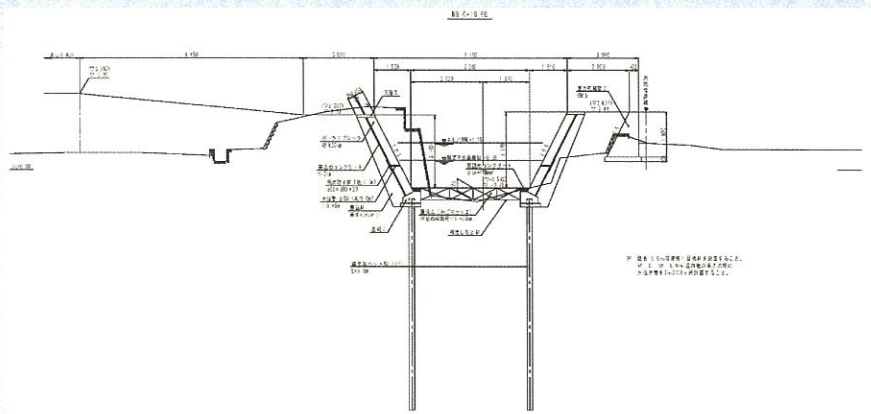
### ①軟弱地盤対策

〔事業費増の主な内容〕

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①軟弱地盤対策	約2.8億円	軟弱地盤対策に伴う工事費の増（護岸、橋梁）
計	約2.8億円	

## 事業費増の要因

地質調査の結果、軟弱地盤層が想定よりも深かったことにより、その対策を行うため。



7

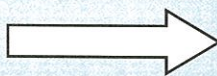
## 費用対効果分析

【B / C】3.05(前回) → 2.91(現行)

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増(軟弱地盤対策費の増加)
- ・工期の延長(事業費増、関係機関との調整)

対応方針  
(原案)



事業継続

8